

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

学びを通じて、自分のよさや可能性を認識し、多様な他者とつながり協働する力を育み、持続可能な社会の主体を育成する学校づくりをめざす。

- 1 様々な生活背景を抱える生徒を深く理解し、生徒のやる気を引き出し、基礎学力の定着と社会的自立に必要なスキルと態度を身につける。
- 2 様々な人との出会いを通じて共感性を高め、多様な他者を尊重する態度を育み、全ての生徒にとって学校が安全で安心な居場所となることをめざす。
- 3 自主活動の推進、系統的なキャリア教育、社会問題の理解を通して、「地域を支える人材」として社会貢献できる生徒を育成する。

2 中期的目標

生徒が学びの豊かさを実感し、自尊感情を高め、他者と共感し、地域社会に貢献する力を育むために、教職員は専門性と同僚性を発揮し、生徒の変化・成長を活力とし分かち合う。

【生徒に育みたい力】 ① 自らを価値ある存在として大切にできる力 ② 他者に共感しつながる力 ③ 社会に主体的に参画できる力

1 基礎・基本の定着と「わかる授業」づくり

(1) 「わかる授業」「生徒が受けたいと思う授業」「考える力が身に付く授業」をめざした授業改善に取り組む。

ア 授業研究や公開授業週間を積極的に展開し、各教員が「わかる授業」づくりのための授業改善に取り組み、生徒の基礎学力の向上を図る。

生徒の学習意欲を高めるための評価方法を研究し、自尊感情が高まる授業、やればできると実感できる授業をめざす。

イ 生徒が「考える力」を身に付けることができるように授業内容を工夫する。(エンパワメントタイムの内容の充実を全教職員で取り組む。)

全ての教科で「授業を受けて何ができるようになるのか」を明確に伝え、生徒の「学習力」向上を意識した授業を実施し評価につなげる。

ウ ICT機器を活用し、授業のユニバーサルデザイン化(視覚化・構造化・協働化)を進めるとともに、教員の「授業力」の向上を図る。

※ 生徒向け学校教育自己診断における「授業がわかりやすい」を、令和5年度以降も80%を維持する。(R2・R3・R4:71%・78.4%・84.7%)

2 安全安心で魅力ある学校づくりと学校の魅力の積極的な情報発信

(1) 生徒の居場所がある学校づくりを通じてのセーフティネットの拡充を図る。

ア 様々な生活背景を抱える生徒を学校全体で受け止め、「誰一人取り残さない」学校づくりをめざす。SC、SSWと連携し、生徒情報共有会議を密接に行う。

イ 保健室、カウンセリングルーム、図書室、関係機関との連携することにより、ピアプレッシャーに弱い生徒の居場所を確保する。

ウ 生徒会活動を活発にし、魅力ある学校行事への改善を進めるとともに、部活動などの自主活動の活性化を図る。

※ 生徒向け学校教育自己診断における「先生は悩みや相談を聞いてくれる」を、令和5年度以降も70%を維持する。

(R2・R3・R4:64%・61.4%・79.0%)

(2) 進路を保障する学校づくりを推進するためのキャリア教育の確立を図る。

ア 外部人材を活用しながら、入学から卒業後の進路を見通したキャリア教育を計画的に推進し、卒業生徒の増加と進路未定者を減少させる。

日々の学習が進路実現につながることを意識し、1年生から3年後を考えた進路保障に取り組む。

イ 参加・体験型の授業実践を工夫し、生徒のコミュニケーション能力やプレゼン能力の向上を図り、円滑な人間関係の構築を支援する。

ウ 生徒の問題行動の背景・要因を深く掘り下げ、行動変容につながる指導援助を行い、社会的自立に必要なスキルと態度を育成する。

個々の生徒の状況に応じた寄り添った支援、生徒・保護者が納得できる指導と支援を実施する。

※ 就職内定率の向上をめざし、令和7年度には95%以上とする。(R2・R3・R4:96%・98.3%・100%)

(3) 人権教育、特に国際理解教育・多文化共生教育を推進する。

ア 個の尊厳を重んじ、教職員自身が人権意識・人権感覚を研ぎ澄ますことで、人権尊重に貫かれた教育を徹底し、いじめや差別の未然防止に努める。

イ 多様化する渡日生、帰国生の母語保障及び日本語教育を推進し、大阪のモデルとなるような多文化共生の学校づくりをめざす。

※ 生徒向け学校教育自己診断における「多文化共生は進んでいる」を令和5年度以降も80%を維持する。(R2・R3・R4:75%・72.5%・86.5%)

(4) 中学校や地域・保護者への広報活動を強化する。

ア 授業を積極的に公開するとともに、授業や行事等の高校生活の様子を学校説明会やホームページを通じて広報する。

イ 「誰一人取り残さない学校」を中学校、中学生・保護者にアピールするとともに、生徒自主活動を活性化させて、「誰一人取り残さない学校」から「生徒自らが主体的に活動する学校」へのステップアップをめざす。

ウ 地域と積極的に関わることでボランティア活動を活性化し、「地域を支える人材」として社会貢献できる生徒を育成する。

3 ICT等を活用した校務の効率化と学校力の向上

(1) 校務処理システムやICTの活用を図り、生徒情報の一元管理を実現するとともに、事務作業時間を軽減することで生徒と向き合う時間を確保する。

(2) ミドルリーダーの育成及び初任者や経験年数の少ない教員の育成を図り学校力を高める。

(3) 不登校などの理由で登校できない生徒の「学びの保障」の観点からICT環境を早期に整備する。

(4) 働き方改革の取組みを進め、教職員の負担を増大させないために積極的に外部人材を活用し業務の効率化に努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 基礎・基本の定着とわかる授業づくり	<p>(1)「わかる授業」「考える力が身に付く授業」をめざした授業改善。</p> <p>ア 「わかる授業」づくりのための授業改善</p> <p>イ 「考える力が身に付く授業」づくりのための授業改善</p> <p>ウ ICT機器を活用した授業のユニバーサルデザイン化</p>	<p>(1)</p> <p>ア 生徒の学習状況(実態)に基づいて授業の見直しを行う。その際、取組みの工夫を各教科で提案し教員全体で共有する。</p> <p>イ 新学習指導要領を見据え「考える力を生徒自らが身に付けることができる授業」の開発に取り組む</p> <p>ウ 研修等で電子黒板を活用できる教員のすそ野を広げる。授業におけるナチュラルサポートを実践。(生徒の努力や取組みをほめる機会を多くつくる。等)</p>	<p>(1)</p> <p>ア・他校の参考になる授業等を見学し、教科共有する取組を1回以上実施する。</p> <p>・公開授業週間を年間2回以上実施し、それらを活用し教員相互の授業見学を2回以上実施する。</p> <p>・学校教育自己診断結果における生徒の授業満足度80%以上の維持[84.7%]</p> <p>イ・「考える力を育む授業」「多面的な評価方法」について少数での意見交流ができる教員研修を2回以上実施する。</p> <p>ウ・学校教育自己診断(教員)の「ICT機器の活用」項目の肯定的回答90%以上の維持[90.5%]</p>	
2 安全安心で魅力ある学校づくりと学校の魅力の積極的な情報発信	<p>(1)セーフティネットの拡充</p> <p>ア 「誰一人取り残さない学校」づくり</p> <p>イ 図書室の活性化</p> <p>ウ 学校行事の改善 部活動の活性化</p> <p>(2)キャリア教育の確立</p> <p>ア 外部人材を活用しながらキャリア教育の推進</p> <p>イ 生徒のコミュニケーション能力等の向上</p> <p>ウ 社会的自立に必要なスキル・態度の育成</p> <p>(3)人権教育の推進</p> <p>イ 多文化共生の学校</p> <p>(4)中学校等への広報強化</p> <p>ア 授業公開</p>	<p>(1)</p> <p>ア 個々の生徒・保護者に応じたきめ細かな指導</p> <p>・1学年は早期に生徒・保護者との面談を行うとともに出身中学校との連携を密にする。</p> <p>・保健カウンセリング部と各学年・分掌との連携の強化。</p> <p>イ 図書室を充実させ居場所を作る。</p> <p>ウ 生徒の学校行事への満足度を向上させる工夫をする。</p> <p>・新入生の部活動加入の推進に生徒部、学年を中心に全教職員で取り組む。</p> <p>(2)</p> <p>ア・3年間を見通したキャリア支援計画を検討し具体化する。</p> <p>・本校に配置される外部人材(CC、SSW、SC)の活用と必要に応じて三者間の連携を図る。</p> <p>イ・教育活動全体を通じて、生徒のコミュニケーション能力、プレゼン能力を伸ばす。</p> <p>ウ・問題行動の未然防止に取組み、社会的自立に必要なスキルと態度を育成する。</p> <p>・生徒が自主的にあいさつやお礼を言うように、教職員から生徒へのあいさつ等の声かけを行う。</p> <p>(3)</p> <p>イ・外国にルーツを持つ生徒と他の生徒との校内での交流を促進する。</p> <p>※(1)(2)(3)を通じて生徒の学校満足度を高める</p> <p>(4)</p> <p>ア・公開授業週間に授業を公開し、保護者及び中学校の先生方に見学してもらう。</p> <p>・HPを通じて生徒の高校生活や授業の様子を掲載し広報活動を行う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断「先生は悩みや相談にいていねいに応じてくれる」(生徒用)の肯定的回答80%[79%]。</p> <p>・学校教育自己診断「担任等に相談しやすい」(保護者用)の肯定的回答70%以上の維持[71.3%]</p> <p>イ・図書委員会を年1回以上開催する。</p> <p>ウ・学校教育自己診断「学校行事に満足している」(生徒用)の肯定的回答80%以上の維持[82.7%]</p> <p>・早期から勧誘に力を入れ、年度末における1年生の部活動加入率40%以上をめざす。[32%]</p> <p>(2)</p> <p>ア・就職内定率95%以上とする[100%]</p> <p>・外部人材を講師とする校内研修を年間1回以上実施する。</p> <p>イ・学校教育自己診断「自分の考えや意見を伝える力がついた」(生徒用)の肯定的回答70%以上の維持[72.4%]</p> <p>ウ・懲戒件数を前年度以下に減少させる。[98件]</p> <p>・学校教育自己診断「あいさつやお礼を言うようになった」(生徒用)の肯定的回答85%以上の維持[86.5%]</p> <p>(3)</p> <p>イ・外国にルーツを持つ生徒と他の生徒が交流できる行事を1回以上企画する。</p> <p>※「エンパワメントスクールに来て良かった」(生徒用)の肯定的回答80%以上の維持[81.2%]</p> <p>(4)</p> <p>ア・保護者や中学校教員に向けた公開授業を2回以上実施する。</p> <p>・学校行事や授業の様子をHPで紹介する。(月1回以上更新する。)</p>	
	<p>(1)ICT等の活用による校務の効率化</p>	<p>(1)校務処理システムやICT等の活用により、生徒情報の一元管理を図る。教職員の事務作業を軽減し、生徒に向き合う時間を確保する。</p>	<p>(1)一部の教職員に集中する校務を削減し、ストレスチェックの総合健康リスクを前年度以下とする[98]</p>	

<p>3 ICTを活用した校務の効率化</p>	<p>(2) ミドルリーダーの育成及び経験年数の少ない教員の育成 (3) ICT環境の早期整備 (4) 働き方改革の取り組みをさらに進める</p>	<p>(2) ミドルリーダーの育成を図る。 ・教職経験年数の少ない教職員の資質と能力の向上を図る。 (3) 家庭学習を視野に入れたICT環境を整備する (4) ビジネス向けのSNS等を活用し、教職員への連絡・周知事項の徹底や、会議時間の縮減を図る。</p>	<p>(2) 教職経験年数の少ない教職員を対象とした校内研修を学期に1回以上実施する。 (3) 「電子黒板等ICT機器を活用し、授業を行った。」(教員用)の肯定的回答90%の維持 [90.5%] (4) 年間を通じて1度以上、月間の時間外勤務が45時間を超えた教員数を20%縮減する [20人]</p>	
-----------------------------	---	--	---	--